

アトピー性皮膚炎完治へ向けて！！

本部 No.2 愛輝

◎ 漢方医学・中医学からのアプローチ

第1回目：

「神仙太乙膏（しんせんたいいつこう）」を用いた実践

◎はじめに

アトピー性皮膚炎の治療法は数多くの報告がありますが、私たちが医療機関にできればかからず、あるいは、医師による治療と並行して、自己で実践し完治を目指すことができると思われる情報をその中から可能な限り収集し、最良のものを見出してゆくことが大切であると思われまます。

これらの内容を実践し、得られた気づきなど有用な情報を蓄積することで、今後、すべての方々に役立てられるものにしてゆき、合わせて、エネルギー医学やスピリチュアルな観点からの実践の考察も付与することにより中今最新のベスト版として更新したコンテンツにしていければ、と考えております。

実践は、東洋医学の中でも、漢方医学、中医学からのアプローチを試みます。

第一弾として、現在、アトピー性皮膚炎の外用薬として、最も効果が高いものの1つであると言われる、漢方軟膏剤の「神仙太乙膏」について、御紹介します。

私も、過去に数回ほど使用し、湿疹を短期間で完治させることに成功しました。

元々は、火傷の特効薬として頻用されるもので、その効果は、目を見張るものがあります。

現在、神仙太乙膏は、多くの医療機関でアトピー性皮膚炎の外用治療薬として積極的に臨床の場で使用されていますが、一般大衆薬としても扱いやすい一面があります。

では、神仙太乙膏について、観ていきます。

◎神仙太乙膏とは！？

中国の宋代に刊行された「和劑局方」に収載された、薬効評価が最大級とランクされた 25 方の中の 1 つです。

特に、化膿性疾患に有効で、相当深い傷でも治すことが可能であると言われていました。

◎用法について

服用は、内服、または、外貼（外用薬として）による用法がありますが、外貼がメインです。

◎使用期限と有効性

長期間保存しても、効果に変化はない、と言われていました。

しかし、長期使用で内容物は酸化され変色していきますので、新しいものほどよいと考えて差し支えありません。

有効性は、**神、仙**という文字があてがわれるほどのものであることから、効果は抜群であると言われていました。

◎神仙太乙膏の構成生薬、及び薬効

川当帰、玄参、肉桂、生乾地黄、赤芍薬、ビャクシ、大黄の 7 種類の生薬で構成されるため、それだけ効果は強いと言えます。

特に肉芽形成作用が強いため、組織修復力がとても強く、傷をきれいに治す特効薬と言えます。

◎神仙太乙膏の適応症

元々は、切り傷、むしきされ、とこずれ、火傷の肉芽形成を目的としますが、化膿性疾患に著効を示すことから、アトピー性皮膚炎による、化膿した掻き傷の治療に応用されます。

◎神仙太乙膏使用における難点

保険適用外ですので高額です。

◎神仙太乙膏の使用による、アトピー性皮膚炎治療への応用

神仙太乙膏は、軟膏剤ですから塗布するときは、塗り込むというよりも、薄く延ばす、あるいは、そっと置く方法をとります（※詳細は、あやさんのスキンケアレポートをご参照ください^^）。

神仙太乙膏を単独で使用するのにもかなりの効果があると言われていますが、様々な情報を調べた結果、中今では、次の方法がベストであると考えられます。

それは、

「神仙太乙膏 + 馬油 + プロポリス」の合剤 を用いる方法です！！

これは、日本の漢方医学の大家のお1人である、木下繁太郎先生が考案された方法です。

<参考文献>

皮膚疾患に効く漢方軟膏

現代によみがえった「神仙太乙膏」 木下繁太郎著 ハート出版

★「神仙太乙膏 + 馬油 + プロポリス」の合剤 の使用

「馬油」は、皮膚の保護剤です。

詳細は、次のサイトをご参照ください。

<http://www.atopyd.com/bayu.html>

神仙太乙膏は、患部の広範囲を延ばしにくいいため、馬油で薄めて使う方法がおすすめです。少し多めの馬油に神仙太乙膏を混ぜ合わせると、延びがよくなり、かなり使いやすくなります。

馬油にも皮膚疾患を解消する作用がありますので、併せて使えば相乗効果が期待できます。

神仙太乙膏と馬油の配合比率は、1：3くらいがおすすめです。

「プロポリス」は、ミツバチが樹脂や花粉などからつくりだす膠に似た物質で、殺菌作用や、豊富な栄養素をもつもので、一時、健康食品としてブームになったことがありました。

詳細は、次のサイトをご参照ください。

<http://www.atopycanchi.com/3235588750.html>

プロポリスや馬油は、神仙太乙膏の、におい消しの役割もあるようです。

というのは、神仙太乙膏は、少し、カレー臭があるからです。

私は、使用時は全く気にしませんが、気にする方もいますので、プロポリスや馬油で多少の臭いを解消することが可能です（完全な解消ではありません）。

また、プロポリス自体も皮膚疾患に有効作用すると言われており、一石二鳥です。

<これまでの経験と考察>

私自身、アトピー性皮膚炎の経験はなく、**神仙太乙膏**と出会ったのは、数年前の冬に、おでこにひどい湿疹ができたときでした。

かゆくなり、掻きむしり皮膚が痛むことで、パサパサの乾燥肌になり、さらに掻いてしまうという循環を繰り返していました。

そのとき、試しに**神仙太乙膏**を夜寝る前に、おでこに薄く塗り就寝したところ、翌朝起きると、すっかりよくなっていました。

数回ほど繰り返した結果、完治しました。

このとき、**神仙太乙膏**のすばらしい効果に感動し、魅了され、以来、漢方薬を探究してきました。

アトピー性皮膚炎に対する、**神仙太乙膏**の臨床例では、重症化し、難治性となったアトピー性皮膚炎でも使用後、早くて2週間ほどで、元のきれいな肌に回復した報告もありました。

しかし、あくまで外用薬ですから、単独使用では、完治には限界があると思われます。

体質改善を目的とした他の漢方薬の内服や、ステロイド剤との併用による、東西統合医療の実践がより顕著な効果を発揮し、完治へ近づくと考えられます。

ただ、今回、御紹介しました**神仙太乙膏**は、その人の体質を表わした「証」を正しく診断しないと本来の効果を発揮できないと言われる漢方薬の中でも、証にそれほど左右されずに比較的広い適応範囲で使用できるすばらしい漢方薬であると言えます。

神仙太乙膏の素晴らしい効果を共有していただけたら、とてもうれしいです！！^^

∞愛輝∞